

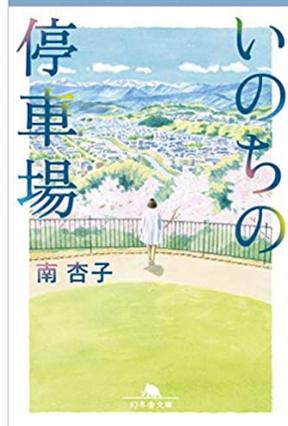
医師・作家の南 杏子さんから 遺愛へ御著書の寄贈がありました！！



5月24日に突然、南 杏子さんという方から学校長宛にレターパックが届きました。開けると『いのちの停車場』・『ディア・ペイシエント』・『ブラックウェルに憧れて』という題名の3冊の御著書とお手紙が入っていました。

お手紙には、今年2月の遺愛高校の入試で、南さんの御著書『サイレント・ブレス』が国語の問題文に採用されていたことに驚かれ、ご縁を感じたこと。1980年代後半に3年間、函館で新婚時代を過ごし、函館の出版社・幻洋社やミニコミ誌で編集の仕事をされ、遺愛にも足を運び、風格ある校舎（現在工事中の本館です。）を感慨深く眺めたことが忘れられないと書かれていました。

この5月には2020年に出版された本が、吉永小百合さん主演の映画『いのちの停車場』になり、全国で封切られました。南さんもその映画でさりげなく女優デビューされたそうです。2018年には、患者と医師の信頼関係を描いている『ディア・ペイシエント 絆のカルテ』が、NHKで貫地谷しほりさん主演でドラマ化されていました。



南さんは徳島県出身。中学高校は兵庫県西宮市で過ごし、日本女子大学家政学部被服学科を卒業した後、25才で結婚され、ご主人の仕事の関係で函館に転居されたそうです。

その後イギリスに行き、お子さんを出産し、日本に戻り、ご主人の理解・協力もあり、東海大学医学部に学士編入し子育てをしながら医師になります。現在は東京都内の終末期医療専門病院に内科医として勤務しながら、ご主人と一緒に通い始めた小説教室「作家養成講座」で執筆にはまり、55歳で小説家デビューをしました。処女作は2016年に、終末期医療や在宅医療を題材とした『サイレント・ブレス』でした。この本の一部が遺愛高校入試の国語の問題文に採用されました。

南さんお手紙の中で、遺愛生に次のような素晴らしいメッセージを送ってくださいました。「皆さんの人生は多くのご縁と機会にあふれています。ここでのご縁を大切に、未来への機会を逃さず挑戦することを学んでください。」

…将来、医療関係の仕事に就きたい生徒が多い遺愛で、ぜひ講演していただきたいと願っています。



2021年6月1日（火）